

大学教育研究センター講演会 「変革期の大学における 学生支援システム」

2月10日午後3時から、リサーチセンター2階の大会議室で大学教育研究センター主催の講演会が開催された。今回の講師は、京都大学高等教育教授システム開発センター助教授の大山泰宏氏で、演題は「変革期の大学における学生支援システム」であった。

講演の中で大山氏は、まず、学生を取り巻く社会状況の変化により学生の気質が変わってきているこ

と、そして、それを受けて大学教育のあり方が変わらなければならないことを指摘した。次に、改革の方向として、次の二つの可能性をあげた。一つは、「教えること」より「学ぶこと」を重要視した、問題解決型学習法の導入で、スタンフォード大学のBike Labでの成功例が紹介された。もう一つは、入学時のオリエンテーション、アドバイザー教員制、キャリアガイダンス、修学相談などを中心とした学生支援で、一例として、ハーバード大学における多彩な学生支援の例が紹介された。また、この二つを統合して改革に成功したポートランド州立大学の事例についての報告がなされた。最後に大山氏はFD(教授団の成長発達、職能向上)、SD(大学のスタッフの成長発達、職能向上)、Student Development(学生の知的側面、人格的側面の成長発達)が一体となった学びの共同体として大学を捉えることが必要であるとして講演を締めくくった。



講演する大山泰宏氏

時代の変化を反映した事例として「ウルトラマンの物語の変遷」が飛び出したり、現在の日本の大学の苦悩の比喩として「ステーキを出そうと必死になっている寿司職人」が登場したり、巧みな大山氏の語りに約50人の参加者は熱心に耳を傾けた。

(大学教育研究センター副センター長

英語英米文化学科 助教授 大門正幸)